

すず探勝園を語る、のころころ

9月13日 逍遙 

逍遙館長さんはまた、こんな事も言っていました。ここ探勝園では、あの島津斉彬が、鹿児島城本丸との間に約600mの電線を引き、モールス信号による電信実験に成功した(1857年)のだとか。強いリーダーシップで富国強兵と殖産興業に先進的に取り組んだ、いかにも斉彬らしい史実ですね。

でも猫のワタシにとっては、むしろ探勝園に建つ銅像3体を製作(いずれも大正6年作)した朝倉文夫の方が大事。「東洋のロダン」とも呼ばれた彫刻家ですが、とにかく大の猫好き。多い時は自宅に15~6匹飼い、猫の作品も結構あるそう。そう言えば今日9月13日は、あの夏目漱石の小説「吾輩は猫である」のモデルとなった夏目家の野良の黒猫の命日。漱石は、親しい人にこの猫の死亡通知を出して、自宅の書斎裏にお墓を建てたとか。猫仲間の間では有名な話なのであります。鹿児島だと、秀吉の朝鮮出兵の際、猫の瞳孔の開き具合で時刻を知るため島津義弘が連れて行った7匹の猫も有名。

ワタシが言うのもなんですが、史実は決して人様だけのものではないのです。

次回「鹿児島城 二之丸跡に誘われて、のころころ」

